

セキュリティ対策機能を重視したクラウド対応統合資産管理サービスを提供

多くのIT資産管理ツールが存在する中、導入企業53,000社以上と高いシェアを誇るのが、「ISM CloudOne」です。IT資産の管理はもとよりセキュリティ対策に注力した点が特徴のクラウド型のサービスです。当社は「dynaCloud iSM powered by ISM CloudOne」として販売しており、手の甲静脈認証「VP-ⅡX」を用いた入退室管理システムと組み合わせることで、情報セキュリティの確保だけでなく勤怠管理としても活用でき適切な労務管理を実現します。

導入の容易なクラウド型のIT資産管理

ITの普及と活用の進化に伴い、企業を脅かすリスクも多様化しています。中でも、標的型攻撃による情報流出や内部不正による情報漏えいなど、個人情報・機密情報の漏えいによって企業が信用を失う事件をニュースなどで目にする機会は少なくありません。

当社が「dynaCloud iSM powered by ISM CloudOne」（以下dynaCloud iSM）として取り扱うオリエティソフト（株）の「ISM CloudOne」は、外部および内部のセキュリティ対策に重きを置いた統合IT資産管理サービスです。これまでの導入実績は53,000社を超え、マネージド型・クラウド型資産管理サービス市場では42%と圧倒的なシェアを誇っています（2015年：ミック経済研究所調べ）。

dynaCloud iSMは、IT資産管理ツールとして以下の機能を搭載しています。

1. ハードウェア・ソフトウェアの情報を自動で収集しレポート化する機能
2. ライセンス種別や形態、インストール状況などの詳細を表示するソフトウェアライセンス管理機能
3. 社内ネットワーク経由でソフトウェアやファイル、レジストリなどの配布・実行を行う機能
4. PCだけでなくスマートフォンやタブレットなども1つのコンソールで管理できるスマートデバイス管理

当社の提供するクラウド型のサービスのため、サーバー購入や管理は不要となり、すぐに運用を開始したい企業や専任の担当者がいない企業でも、迅速かつ低コストでの導入が可能です。

あらゆる拠点、あらゆるデバイスの一括管理を、クラウドサービスを利用することで実現できます。

セキュリティの自動管理を実現

dynaCloud iSMは、前述したように資産管理ツールでありながら、セキュリティ対策に軸足を置いている点が他社製品との大きな違いです（図-1）。以下のようなセキュリティの外部および内部対策機能を備え、ダッシュボード（管理画面）でセキュリティレベルや状況をひと目で確認できます（一部オプション機能）。

(1) 自動脆弱性診断

対処が必要な端末が自動でレポート化されるため、運用工数を抑えたセキュリティ対策を実現します（図-2）。また、端末の状態とセキュリティ辞書^{注1}を1日1回突き合わせることでPCの脆弱性を自動でレポート化、必要な是正操作をシームレスに行えます（図-3）。

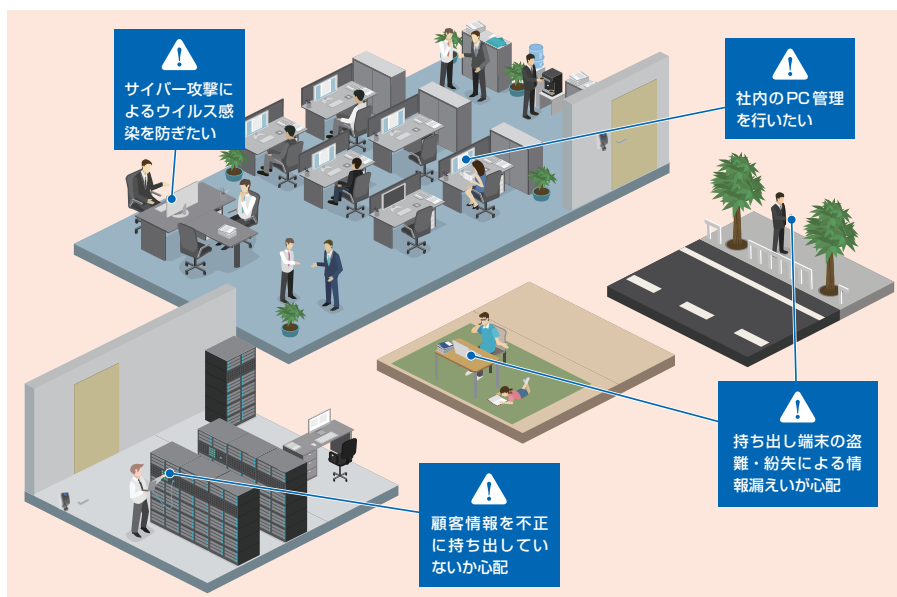


図-1 dynaCloud iSMによるセキュリティ対策

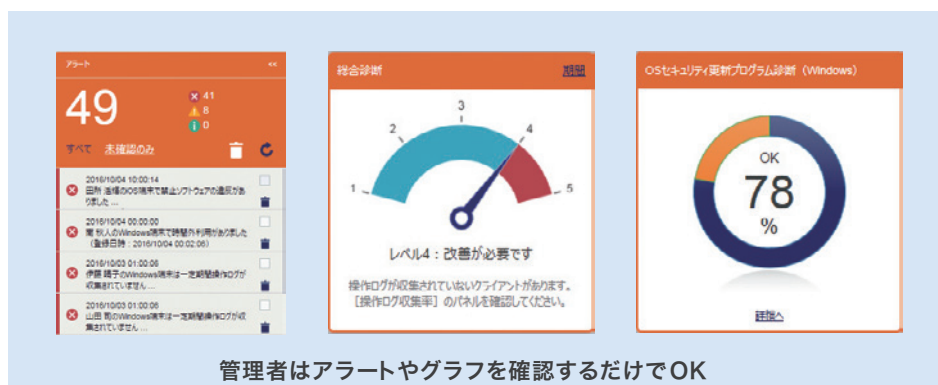


図-2 セキュリティの自動管理

(2) ふるまい検知

5つのエンジンでマルウェアを検知、静的+動的分析で未知の脅威からPCを保護します。

(3) URLフィルタリング

不審なサイトの閲覧やストレージサービスへのアクセスを制限し、内部からの情報漏えいを未然に防止します。

(4) 禁止ソフトウェア起動制御

情報漏えいに繋がる恐れのあるソフトウェアリストのデータベースを搭載し、企業にリスクのあるソフトウェアの利用制御を簡単に行えます。

(5) 外部デバイス制御

USBメモリやCD/DVD、スマートデバイスなどの外部デバイス利用を制御し、ファイルの持ち出しによる情報漏えいを防ぎます。

(6) 操作ログ取得

クライアントPCの操作を見える化しログとして管理し、問題発生時の早期発見と不正操作を抑止します。

(7) ディスク暗号化

システム領域も含めハードディスク全体をまるごと暗号化し、端末内のファイルを守ります。

手の甲静脈認証を利用した入退室管理

最近では、指紋認証とパスワードといった、種類の異なる2つの情報を組み合わせることで安全性を高める二要素認証によるセキュリティ強化の必要性も話題となり、すでに自治体ではセキュリティ要件の1つとされています。民間企業においても個人情報・機密情報保護の観点から、あるいはプライバシーマークやISMSの取得・維持などで関心は高まっているものの、指紋認証システムなどの導入コストがネックになってその足を踏むケースも少なくないようです。

ここにきて入退室管理などで採用が進んでいる手の甲静脈認

証「VP- II X」は、手の甲側の静脈パターンを読み取ることにより、季節などによる血管の収縮・拡張の影響も受けにくく安定した認証を行えるものです。生体認証のためにカード運用のような管理の手間がかからず、出入口など扉単位での機器構成のため、導入コストの点でも設置・移設などの柔軟性の点でもそのメリットが注目されています。

dynaCloud iSMはVP- II Xと連携することで、情報の漏えい防止やセキュリティエリアの入退室管理など強固な情報セキュリティの確保を実現する環境を提供します。オフィス入室時の静脈認証を行う際には、4桁のワンタイムパスワードが発行されます。入室後にはそのパスワードを入力してPCにログインする仕組みのため、権限のない第三者や未入室のユーザーがPCにログインすることはできません。また、従業員の入退室情報とPC稼働ログと連動することで勤務実態の把握が可能で、従業員の勤怠管理などを行えるメリットもあります。例えば、PC稼働状況のログと実際の出退勤の状況には大きな差分が生じるケースもあり、そのような場合でも従業員の勤務実績をもとに効率化対策を講じることが出来ます。働き方改革が声高に叫ばれている中、dynaCloud iSMとVP- II Xを組み合わせることで、適切かつ効率的な労務管理に取り組むことが可能となります。

dynaCloud iSMは当社のクラウド基盤を使ったクラウドサービスとして展開しており、お客様の導入コストを抑えながら、1つのソリューションで企業が必要とするセキュリティ対策とIT資産管理を提供しています。今後もお客様のニーズを満たすセキュリティソリューションを実現していきます。

(デジタルエンジニアリング第3事業部 藤井 文治)

注1) セキュリティ辞書：Windows更新プログラム、Adobe製品、Java、ウイルス対策ソフト、Webブラウザなどのあるべき姿（最新状態）が登録されたデータベース。辞書は毎日更新されます。

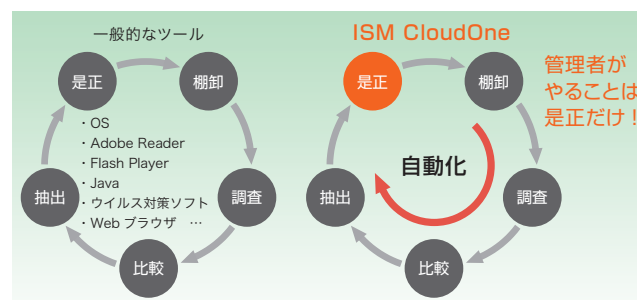


図-3 脆弱性対策工数を大幅に削減